

広報ただみ診療所

いよいよコロナ共生社会へ！

朝日診療所 所長 わかやま 若山 たかし 隆



2022年2月まで猛威を振るっていた新型コロナウイルス・オミクロン株ですが、3月になるとだいぶ数が減っていると思います(予想が外れていたらごめんなさい)。オミクロン株はデルタ株などのこれまでのコロナ株と比べて、2倍から3倍も高い感染力をもっていますので、あっという間に広がるのですが、その分おさまっていくスピードも早いようです。海外の状況をみると、およそ1か月で猛烈に増えて、その後1か月で猛烈に減っていきます。日本ではまん延防止措置などで流行を抑える工夫をしたこともあり、もう少しゆっくりになるかもしれません。

また、オミクロン株にはワクチンの3回接種が有効です。ワクチンの重症化予防効果は、ワクチン2回接種後5か月以上経過すると54%程度ですが、ワクチン3回接種で2か月以内は91%、4か月たっても76%の予防効果があるという報告があります。ワクチン3回接種で重症化はある程度長期間予防できそうです。

また、飲み薬もいくつか登場してきました。対象となる方には条件があります。発症して5日以内かつ重症化リスクのある方(高齢者、慢性の肺・心臓の病気のある方など)です。重症化リスクのない若い方などにはまだ投与できません。しかしながら、簡便で有効な治療法があることは心強いことです。

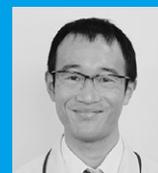
オミクロン株はそもそも重症化が少ないとされます。これまでのデルタ株と比べると、重症化が2分の1から3分の1とされています。

新型コロナウイルスに対する3回目のワクチン接種を打った方が日本全体で増えてくると、上記の他の要素もあいまっていよいよ本当のコロナ共生社会になってくると思います。コロナウイルスに過度に怯えず、感染対策は続けながら、イベント・交流を楽しめるようになる日も近いと思います。良い未来を楽しみに頑張りましょう！

地域おこし協力隊として Vol.87

初めての只見から8年半を経ての移住

只見ユネスコエコパーク推進協力隊 こんどう ゆうた 近藤 友太



私が宇都宮大学のサークル活動で只見町を初めて訪れたのは大学1年生の時、2013年の田植えの時期でした。地元(愛知県豊橋市)は1月下旬には菜の花が満開になる温暖な町でしたので、5月にも関わらずところどころ雪が残っている只見の風景に驚いた記憶が残っています。

その後も定期的にサークル活動で布沢を訪れるうちに、元々家庭菜園が趣味だったことから集落の遊休農地を借りて週末農業を始めることになりました。そして、大学を卒業し栃木県内で就職してからも毎週末布沢へ通い、野菜や豆、ベリー類、ヒマワリなどの栽培をしていました。

ちなみに昨年は管理する畑が1haを超え、イチゴ100kg、ジャガイモ400kg、大豆やハトムギが数十kg…の収穫となりました。(収穫物は知り合いに配るだけでしたので作るほど赤字でした。笑)

このような週末通いの生活が数年続き、只見町に移住をしたい気持ちが日増しに強まっていたところ「地域おこし協力隊」の募集を知り応募をしました。そして、昨年12月に地域創生課の只見ユネスコエコパーク推進協力隊として採用となり、晴れて只見町へ移り住むことができました。初めての只見訪問から8年半が経っていました。

当面の主業務は現在只見町が事務局を担っている「日本ユネスコエコパークネットワーク」(国内10か所のユネスコエコパーク登録地域のネットワーク組織)の事務局運営になります。近くは群馬県のみなみ町、遠くは鹿児島県の屋久島町まで他9地域の担当者との連携を図り、ユネスコエコパークの活動の発展に少しでも貢献できるよう取り組むとともに、併せて、今まで携わってきた農業の方面でも只見ユネスコエコパークの活動の展開に関わっていければと思っております。

皆様これからどうぞ宜しくお願い致します。